



雪の夜の・・

バレンタインワークショップ

☆あたたかな寄り合いでした☆

雪のバレンタインになった2月14日の夜、「町屋ゲストハウス ならまち」を会場に、多様性ミニワークショップを開催しました。

奈良県から委託を受けた「まほろばふるさと雇用再生特別対策事業『人権研修の教材等開発事業』」の取組のひとつで、講座を開く題材としてのワークをダイジェスト版でやってみようという試みです。



当日の午後から始め、交通が遮断されるのを予測して足早に家路を

急ぐ人の姿が多く見受けられました。

ワークショップに参加のご返事をいただいていたものの、「こんな雪の日にみなさん来てくださるかなあ・・・」と心配していましたが、開始時間の午後7時近くになると、肩や足下を雪で濡らしながら「こんばんは」「雪でバスがなかなか来なくて・・・」「寒い寒い！」と、言いながらみなさん集まってくださり、やれやれ。身体が暖まるように飲み物や軽食をとりながら進めていきました。

ミニワークショップのラインナップは、

- ☆TC カラーセラピー(自己認識のワーク) 林田弥生
- ☆弘さんの結婚 松谷操
- ☆思考と豊かさの関係(うつ予防) 福本きよみ
- ☆知っていますか? こんなことビンゴ 松村徳子
- ☆ジェンダーのグラデーション 古川政也
- ☆それぞれの特質を知る 寺前美加 です。

「TC カラーセラピー(自己認識のワーク)」で、色を題材に自分自身を知るというものや、子どもの結婚相手に求めるものを考える「弘さんの結婚」、就職する際に大切なことな何かを、面接官になったつもりでやりとりをする「就職面接」、「うつ」について、身近な「お金」を題材に考える「思考と豊かさの関係(うつ予防)」、身近なところから、奈良の男女平等度を考える「知っていますか? こんなことビンゴ」、ジェンダーバイアスを見直すことで、「境界」「排除」について考える「ジェンダーのグラデーション」そしてまとめにあたる「それぞれの特質を知る」でした。各15分ごとのミニミニワークショップでしたが、ペアワークを取り入れながら、お互いを知り合い、自分の考えを公開しあうという内容で、それぞれがつながっているように思いました。

なかには「TC カラーセラピー」で、自分の



性格を「当たっている!」と驚いている方もいました。

終了後は、それぞれのワークの合評会&親睦会でした。表通りを「シャンシャン」とチェーンの音が響くのも、どこな懐かく、心地よく感じられました。バレンタインらしくチョコレートの交換をしあったり、わいわいがやがや話は尽きることなく、雪の夜はしんと更けていきました。

アースデイならSouth2011 開催します！！

(1)開催趣旨

温暖化が地球に破壊的なダメージを与えるまでに残された時間は、あと40年もないといわれています。世界中で環境問題が深刻さを増し、その対応を真剣に考えなければならぬ時代に私たちは生きています。時代を担う子ども達が、地球を共有するすべての生物が、安心して暮らせる地球を創っていくことの大切さは、多くの人々に認知されるようになってきました。こうした中、地球環境保護の大切さを一人でも多くの皆さんとともに確かめ合うために、私たちは今年もまた「アースデイならSouth」を開催します。



(2)イベント名称/アースデイならSouth2011

(3)日 時 2011年4月24日(日) 10:00～16:00 小雨決行

(4)場 所 奈良県橿原文化会館前広場

(5)主 催 アースデイならSouth2011 実行委員会

(実行委員会参加希望の団体個人を募ります。)

※ 日時、場所につきましては、会場確保の関係上、上記の通りとさせていただきます。内容につきましては下記を開催要綱案として実行委員会で検討することとさせていただきます。

(6)テーマ 楽しみながら考えよう、森と地球のこと 一国際森林年一

(7)内 容

① ステージ

ライブ演奏、参加団体の紹介とアピール

② 広場

ア. 参加団体展示(1ブース/3m 四方 出展料 1000 円)

イ. 飲食店等の模擬店(1ブース/3m 四方 出展料 2000 円) 何らかの金銭の授受がある場合

ウ. 一箱古本市 (1人 500 円)

③ 全体企画(検討中)

(8)参加募集

① 実行委員会参加団体

② 当日参加の出展、出店団体・個人

※応募要領

・別紙申込み用紙に (1)もしくは(2)の参加方法をご記入いただき郵送又は FAX でご返送頂きますようお願いいたします。

・実行委員会に参加を頂ける方は、別途実行委員会案内を差し上げますので、参加の程よろしくお願ひします。

・当日参加の出展、出店団体・個人の皆様は必要事項もご記入ください。

尚、ご質問・不明な点等ございましたら、お手数ですが下記までご連絡いただきますようお願い申し上げます。

●参加申し込み送付先、および問い合わせ先

アースデイならSouth実行委員会奈良市高畑町 1202-7 NPO ほっとねっと事務局内

TEL・FAX/0742-94-6800 Email npohotnet@yahoo.co.jp

求む！当日ボランティア。会場整理、舞台設営、後片付けなど。ご連絡を！

高校授業料の朝鮮学校無償化除外反対アンソロジー朗読会 in なら



2月13日、橿原市の奈良朝鮮初級学校で「高校授業料の朝鮮学校無償化除外反対アンソロジー朗読会 in なら」を、この問題に取り組む有志たちと共に開催した。奈良における朗読会は、広島、京都、東京に続く第4弾で、会場には予想を上回る120名が詰めかけ、用意した資料が足りず、立ち見が続出することになった。

朗読会の準備で2度ほど奈良朝鮮初級学校を訪れた。近くに住みながら実際に校舎を見たことはなかったのだが、校門を入ると校庭が大変小さいのが印象的で、学校の建設と維持に大変苦労されていたことが伺われた。休校となって閑散としているが、かつての子ども達の活動の名残が感じられる校舎は、朗読会の会場としては最適に思われた。

アンソロジーとは異なった作者による詩集という意味だそうで、朗読会は朝日の詩人達がそれぞれ自作の詩を朗読し、作者が来られない場合は代読で進められた。このような朗読会に参加するのは初めてのことだが、

BGMのフルートとともに、詩に託された思い、願いがひしひしと伝わり、参加者の多くが涙しながら聞き入った。また、今回の朗読会には中級生達も参加し、合唱や朗読に参加してくれた。それらを聞くにつけ、今回の「除外」が傷つけられた人の心をさらに踏みにじる心ない措置であることが痛感された。

民族排外主義グループの妨害が予想され、告知は最小限しか行わなかったが、呼びかけに応じて多くの人達が参加してくれたことを、とても嬉しく思った。

ちなみに、無償化をめぐる現在の状況は以下の通り。引き続き声をあげ続けなければならない。

高木義明文部科学相は25日の閣議後会見で、北朝鮮による韓国への砲撃で停止している朝鮮学校の授業料無償化適用審査について「今年度中の審査再開は困難」との見解を示した。年度をさかのぼっての支給については「(法的に)可能なかどうか検討する」と述べ、10年度の朝鮮学校卒業生を無償化制度の対象としない可能性も示唆した。これまでは審査停止の理由を「朝鮮半島情勢が不安定なため」としていたが、会見では「大震災への対応もあり、事務手続きが進まない」と加えた。朝鮮学校の無償化を巡っては昨年11月に10年度の適用が決まったが、その後の砲撃で審査が停止。朝鮮学校側は「『外交上の問題と教育の問題は別』としていた政府見解と矛盾する」として再三、審査再開を求めている。(毎日新聞3月25日)

近畿圏の環境団体が集結し、交流会

2月13日、大阪・天満橋のOMMビルで、きんき環境館のパートナーシップ団体、全55団体が集い、それぞれの活動を紹介しながら、内外の交流を目的とした展示・発表会が開催されました。ほっとねっとも、パートナーシップ団体としてブース出展、大阪で印刷済み未利用封筒の回収にかかわってくれている若者と、まだ慣れない手つきで手作りの実演をやりつつ、他団体の皆さんに「封筒再生プロジェクト」のアピールをしました。ブースが近くだった「パーマカルチャー関西」という団体さんはデザイナー集団のようでしたが、デザインするのは「コミュニティ」。血が通っていて、なおかつファッショナブルなコンセプトはなかなかいい感じでした。



ごちなく、実演中・・・

野次馬情報 掲示板

☆「ふるさと」一緒に歌いませんか！

- とき……4月11日(月)午後2時46分
- ばしょ…そのときにみんながいる、そこが会場

うさぎおいしかのやま こぶなつりしかのかわ
ゆめはいまもめぐりて わすれがたきふるさと

いかにいますちちはは つつがなしやともがき
あめにかぜにつけても おもいするふるさと

こころざしをはたして いつのひにかかえらん
やまはあおきふるさと みずはきよきふるさと

あつという間に大切な人を、ふるさとを失った無数の人たち。えぐられるような深い悲しみと、心におさめきれない無力感は直接被災にあった人はもちろん、日本のすべての人、世界の人も痛いほど感じている。

何かしたい、でも何もできない事へのあせりと苛立ち。何かしなくちゃ、でも何ができるの？

未曾有の自然災害の後に起こった、空前の人災。自分の身の安全ばかりに気をとられだしたとき、本当に危険な時を迎える。

だから、気持ちを合わせたい。
心をひとつにしたい。
だから、歌いたい。
みんなで歌いたい。

大切な人を失った人も、守った人も、亡くなった人も、いのちのある人も
家を流された人も、焼かれた人も、壊された人も、
生活の糧を失った人も
出稼ぎに来ている人も、職のない人も、海、山、土につかえる人も、サラリーマンも
子どもも、おじいちゃん、おばあちゃんも、お母さん
お父さんも、若者も
誰もが知っているこの歌を、みんな一緒に歌いませんか。

みんながいるところ、そこが会場です。

仕事の中は心の中で、デイサービスではなつかしんで、保育園では子守唄として、街のミュージシャンは路上で、病気の方は布団の中でももちろん自主的に集まる場を決めてくださってもかまいません。

ハミングで、大声で、楽器を持って、口笛で、コップを叩いて、それぞれの場所で、時を同じくして一緒に歌いませんか。

震災の日からちょうど一ヵ月後
4月11日(月) 午後2時46分
北海道から沖縄まで、すべての人と歌いたい。
失ったふるさとを、私たちは必ず取り戻す。
みんなで心をひとつにして、そう願って。

これと呼びかけるぼくは
4月11日(月)午後2時20分頃から世田谷区立羽根木公園の中央広場に行き、
46分、一分間の黙祷をささげたあと、「ふるさと」を歌います。
この思いを同じくする素敵な仲間達と共に。

羽根木公園は、小田急線梅丘駅から徒歩2分。
日本で初めての常設の冒険遊び場が生まれたところですよ。
ぼくはそこでたくさんの子どもといっばい遊びました。
ここが子どものふるさとになってくれたらいいと願って。
ふるさとは、子ども時代の遊びの記憶と共にあるからです。

やまはあおきふるさと みずはきよきふるさと

気持ちがあればできること。
表すことで、きっと勇気がわいてくる。
そう信じています。

呼びかけ人

天野秀昭と趣旨に賛同する冒険遊び場の仲間有志

天野秀昭の自己紹介

冒険遊び場(子どもが「やってみよう」と思えることをできる限り自分の手で実現できることを保障しようと作られた手作りの遊び場。プレーパークともいう)で、日本で初めて飯を食った人間。全国にこういう遊び場を広げようとしている。

今回の震災でも、子どもが遊びを通して心のケアができるようにと被災地に遊び場を作る計画を練っている。

世田谷区在住。

amakappa3@s02.itscom.net